

7. 情報発信・広報活動等

①研究活動等の公開状況（講演会、公開講座等）

シンポジウム 講演会		公開講座 セミナー		その 他 (施設等の一般公開等)		合 計	
件 数	参加人数	件 数	参加人数	件 数	参加人数	件 数	参加人数
2	66	3	88	0	0	5	154

○主なシンポジウム、公開講演会、施設等の一般公開の開催状況

開催期間	形態 (区分)	対象	公開講座等名称	概 要	参加 人数
R3.8.3	公開講座	一般	家畜衛生講習会（牛疾 病特殊講習会）	牛の放牧衛生、牛小型ピロ プラズマ病についてをオン ラインで実施 対象者：家畜保健衛生所の 職員など	47
R3.10.28	シンポジ ウム	国際	Online symposium on joint usage/research center project "Establishment of tick biobank and its appli- cation to vector biol- ogy research"	Online symposium: DeMar Taylor 先生（筑波 大学）と荻原麻里先生（国 立研究開発法人 農業・食品 産業技術総合研究機構 畜産 研究部門）の 2 名による講 演を実施	24
R4.2.8-9	公開講座	一般	令和 3 年度家畜保健衛 生所病性鑑定技術検討 会(寄生虫部門)	ネオスポラ症の病性鑑定技 術に参考となる講義をオン ラインで実施 対象者：家畜保健衛生所職 員	27
R4.3.16	シンポジ ウム	国際	Online symposium on joint usage/research center project "Establishment of tick biobank and its ap- plication to vector bi- ology research"	Online symposium: 原虫研マダニプロジェクト の活動紹介および Dr. Pat- rick Vudriko、Mr. Joseph Byaruhanga（ウガンダ； JICA 研修員 OB）による講 演を実施	42
R4.3.24	研究会	国際	原虫病研究センター/モ ンゴル獣医学研究所間 のオンラインでの OIE 学術交流セミナー	OIE Academic Exchange Seminar (IVM-NRCPD) 「Molecular epidemiology of bovine <i>Babesia</i> species in domestic ruminants and <i>Theileria equi</i> and <i>Babesia caballi</i> in horses in Mongolia」	14

②定期刊行物やホームページによる一般社会に対する情報発信の取組

情報発信の手段・手法	概要およびわかりやすい情報発信のための工夫
ホームページ	<p>センター専用のホームページ（日本語版・英語版）を開設し、研究活動（プロジェクト、国際協力）や研究成果（論文リスト、受賞、年報）のほか、毎年度発行している年報や原虫病に関する国際的定期刊行誌「The Journal of Protozoology Research (ISSN 0917-4427)」等を掲載し、国内外に向け広く紹介している。</p> <p>なお、研究内容が研究者のみならず、一般市民に向けても広く理解が得られるよう、情報発信について工夫しており、例えば、多くの原虫病を媒介し人や動物に甚大な被害を与えている「マダニ」の研究については、「マダニ解説ビデオ」や「とかちマダニじてん」を制作し、公開している。</p> <p>さらに、平成 29 年度には OIE コラボレーティングセンター及びリファレンスラボラトリーの専用ホームページを新たに作成し、実施可能なスーラ病診断検査に関する情報と検査依頼手順を公開した。また、この手順書は、米国農務省・動植物検疫所 (UDSA-APHIS) ホームページからも公開されている。</p>
SNS	研究ジャーナルや人材育成活動などの情報を発信するため、Facebook を開設し、研究成果等の情報を公開するとともに、研究者コミュニティや一般ユーザーからのレスポンス把握に利用している。
パンフレットの作成	毎年センター概要や研究活動を紹介したリーフレット（日本語版・英語版）を作成し、国内外の関係機関への送付や公共施設への設置、市民が来場するイベントでの配布等により、センターの活動について広く周知している。